

## UL ビギナーズ・セミナーでの TurningPoint の活用

株式会社 UL Japan 様



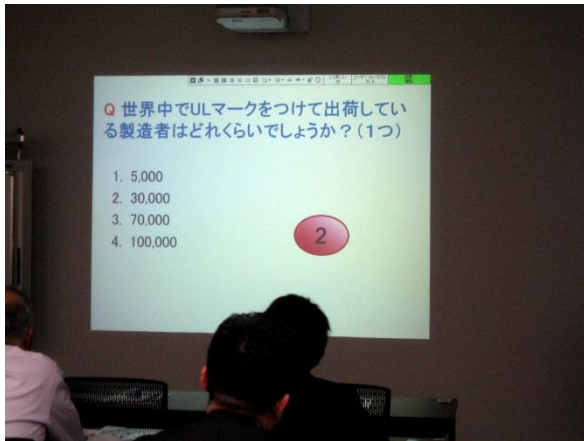
幅広い製品に対して、安全性確保のための適合性評価サービスを提供する独立試験・認証機関の株式会社 UL Japan。今回、製品規格と適合性評価について理解を深めたい企業担当者のために同社が開催する「UL ビギナーズ・セミナー」において、TurningPoint をご利用いただいた。

UL ビギナーズ・セミナーは、北米で自社製品の販売を検討しているメーカーや、また既に認証を取得済みの企業の新担当者が対象であり、UL マークをつけて出荷するためにどのようにして安全認証を取得するのかを知ることができるセミナーである。「UL ってどのようなものなのか？」を知るきっかけとして参加する参加者も多い。

セミナーでは、最初に「皆様の所属部門はどちらでしょうか？」という質問をされ、そこから本題に入っていった。セミナーの冒頭で「どんな参加者が来ているのか」を把握することで、必要に応じてその日のセミナーでの話し方を変える事ができる。また、参加者にとっても自分の属性を明確にすることで、より必要な情報を効率よく入手できることになる。



セミナーでは UL 認証についての説明が進められ、10分に1問程度のペースで理解度確認のためのクイズが用意されていた。参加者された方は、セミナーで見聞きしたことを会社に帰って整理し、他の方に伝える役割を担っている。そのため、都度質問をすることでフィー

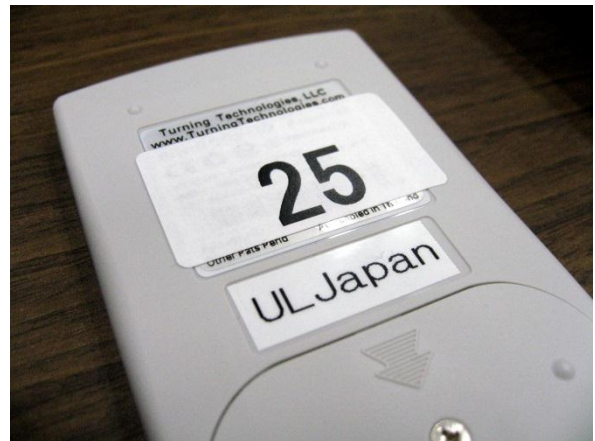


ドバックをもらい、セミナーの内容がしっかりとご理解いただけているかを確認する。説明内容について誤解などされていないかを確認することで、より効果的なセミナーを実現できる。10分~20分に1回ぐらい質問を入れることで勘違いを修正し、不明点を明確にしながらセミナーは進んでいく。



中には説明の前にクイズを出すような質問もされていた。説明をした後にクイズを出すのか、クイズを出してからその結果を踏まえて説明をするのかでは得られる効果が異なってくる。そこをうまく使い分けられていた。

元々参加者の方の意欲は高いと思われるが、クイズの時も集中してセミナーに参加されている様子が後ろから見ていた私にも伝わってきた。また、初めてレスポンスカードに触れる方でも簡単に操作できるところがTurningPointレスポンスカードの良いところでもある。



配布に関しては、机とレスポンスカードの両方に連続した番号のシールを貼り、セミナーで使用する資料と共に参加者が着席される前から机の上に設置されていた。回収は、セミナーの最後に、参加者が退席される前の筆記アンケート記入時間を利用して行われた。

取材日時：2013年4月22日（月）  
レポート：KEEPAD JAPAN 株式会社